



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.57

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2013.夏

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



第43回 企画展

## よみがえ 甦れ! カミツキマッコウ 古代ゾウ

関東に眠る太古の生きものたち

2013.7.13(土)~9.1(日)

アケボノゾウ  
収蔵: 群馬県立自然史博物館

私たちの足下に広がる大地には、かつて地球上に生息していた太古の生きものたちの化石が眠っています。そしてそのような生命の積み重ねの結果として、現在の私たちをはじめとした生きものたちの世界が形作られてきました。

ほんのすこし前まで生息していた、現在では見られない生きものたち。ゾウやトラたちが歩き回っていた関東、謎の哺乳類デスマスチルスの仲間や、現在では絶滅してしまったクジラ・イルカたちが泳いでいた関東など、現在では想像出来ないような過去の関東に生息していた生きものたちの息吹を企画展で感じていただければと思います。

日付	企画	時間	講師	定員	参加費
7月14日(日)	講演会「あらわれた動物・いなくなった動物 関東の1000万年の動物の歴史」	13:30~15:30	長谷川善和 (群馬県立自然史博物館名誉館長)	100名	無料
7月28日(日)	自然教室「30万年前の化石を取り出そう」	13:30~15:30	館職員	20名	50円(保険料)
8月4日(日)	自然教室「ペーパークラフトでよみがえる太古のクジラ」	13:30~15:30	館職員	20名	50円(保険料)
8月18日(日)	講演会「よみがえる化石たち 骨から読み解く太古の生きもの」	13:30~15:30	對比地孝亘 (東京大学理学系地球惑星環境学科講師)	100名	無料
8月25日(日)	自然教室「群馬サファリで太古の関東を感じよう」	10:30~15:00	川上茂久 (群馬サファリパーク園長)	40名	大人 1,050円 中学生以下 550円 (保険料・見学科)

※対象はすべて小学生以上。(小学3年生以下は保護者と一緒に参加)

※申込方法は、各イベント開催日の一ヶ月前の9:30より電話で受付(先着順)。



カミツキマッコウの化石（頭蓋）

最近人気のダイオウイカの天敵としても知られるマッコウクジラは3000メートル以上の深海にまで潜るクジラ・イルカの仲間です。マッコウクジラ科の現生種はマッコウクジラの1属1種だけです。しかし最近の研究によって過去には同じマッコウクジラの仲間でも、現在のマッコウクジラとは見た目も生態も全く異なるものたちが存在していたことが明らかになってきました。

そのような仲間の代表がカミツキマッコウです。長野県のおよそ1500万年前の地層から発見され、群馬県や茨城県でも同種と考えられる化石が見つかっています。学名(属名)は*Brygmophyseter*で、噛み付くという意味のギリシャ語brygmosとマッコウクジラを表すphyseterに由来しています。現在のマッコウクジラでは機能する歯は下あごだけにしかありません。これに対してカミツキマッコウは上あごにも立派な歯が生えていて、名前の通りガブリッと獲物に噛み付いていました。彼らは魚類や他のクジラ・イルカなどをも捕食する当時の海洋の生態系の頂点を占める生物のひとつだったと考えられています。

第43回企画展「甦れ!カミツキマッコウ 古代ゾウ ～関東に眠る太古の生きものたち～」では最新の研究に基づいて製作したカミツキマッコウの実物大生態復元模型を世界初公開します。

(学芸係 木村敏之)

## 自然のコラム ニホンカモシカ

ニホンカモシカは、本州、四国、九州に生息している日本固有種です。その名前のとおり、シカに間違われることもあります。実はウシの仲間です。群れで暮らすシカと違って、一定範囲のなわばりの中で単独生活をしています。また、シカはオスだけに角が生えますが、カモシカは雌雄ともに角をもっています。その角は、毎年生え替わるシカと異なり一生伸び続けます。

カモシカの角をよく観察すると、角の表面に深い溝があることがあります。これを「角輪」といいます。冬を越すたびに、まるで木の年輪のように溝がついていくので、この角輪の数を数えることでカモシカの年齢を知ることができます。また、メスでは出産した年に角輪の間隔が狭くなることから出産回数を推定できるといわれています。

昭和初期には狩猟圧によって絶滅が心配されるまで激減したカモシカですが、1925年に狩猟の対象からはずされ、1934年に国の天然記念物、1955年に国の特別天然記念物に指定されました。こうした保護政策によって個体数や生息分布も回復してきましたが、最近の調査によると、近年急激に個体数が増加しているシカとの競合により、個体数の減少が危惧されつつあります。

(学芸係 姉崎智子)



ニホンカモシカ



角に刻まれた角輪



# 自然史博物館の上野村調査について

多野郡上野村は、群馬県の南西の端にあり、関東山地で埼玉県・長野県に接しています。神流川源流部の急峻な山地が大部分を占めるため、村に入るにも村内を移動するにも不便を強いられました。このため、上野村での総合学術調査は、群馬県自然環境調査研究会によって1980～1982年に行われた奥多野地域学術調査があるものの、広く険しい上野村全域はカバーしきれません。また、地質や岩石・古生物の各分野でも新たな情報が集まりつつある神流町や下仁田町などに比べても、上野村地域での研究は進んでいなかったのが実情です。



険しい上野村の山（マムシ岳）

一方、奥地での伐採・植林やダム開発に加え、近年シカやイノシシの増加によって上野村では絶滅危惧植物や自然植生への影響が認められるようになってきました。2009年に湯の沢トンネルが開通し、下仁田からのアクセスが大幅に改善されたことは、自然環境の変化や絶滅危惧種の現状把握が喫緊の課題であり、さらに地質・生物の基礎的な資料・データが不足気味な上野村を効率よく調査できるチャンスと考えました。そこで2011～2013年の自然史博物館の学術調査の候補地として上野村が正式に決定しました。

昨年度までの2年間に動物（哺乳類・両生類・昆虫・陸生貝類）、維管束植物、大型菌類、地質、古生物の各分野で調査が行われました。昨年度には37回調査が入り、今年末まで調査を継続した後、年度末に報告書を発行する予定です。

調査にあたっては、植物・菌類・貝類などのオーソドックスな採集とともにたとえば哺乳類では定点カメラによる撮影やネズミ用トラップの設置なども行っています。



シカの食害により林床に草本はない（マムシ岳）

筆者の専門分野の植物では、村内に点在する石灰岩地の植物相の解明をシカの食害調査と平行して行っています。神流町叶山と共通する石灰岩地特有の絶滅危惧種や、群馬県で過去に1～2例しか報告がない植物も複数記録できました。その一方でシカによる植物への影響は予想以上でした。食害によって林床の植物がなくなった森林、枯死・崩壊寸前の崖上の低木群落、食害によりすでに消息不明の絶滅危惧種・イボタヒョウタンボクに盆栽のように刈り込まれた本州中部固有の絶滅危惧種・スグリなど、まさに「待たなし」の状況です。さらにシカが嫌うハシリドコロやアセビなどは以前にもまして増加傾向にあります。



南アルプスや丹沢との共通種トダイアカバナ

最後に踏査・採集やトラップ設置など、この調査にあたって地元の皆様や、地権者の株式会社吉本様、関東森林管理局群馬森林管理署の皆様にご協力いただいています。この場を借りて御礼申し上げます。

（学芸係 大森威宏）



# あれも貝、これも貝

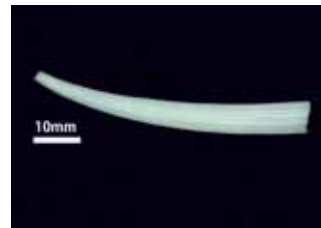
アサリの味噌汁やサザエの壺焼きなど、貝と聞くと美味しい「二枚貝」や「巻貝」を思い出す方が多いでしょう。こうした貝類は軟体動物という生物のなかまです。イカ・タコ(頭足類)や、8枚の板を背負ったヒザラガイ、牛の角のような中空の殻をまとったツノガイ(掘足類)なども軟体動物に含まれます。一見、まったく関連のない生物たちに思えますが、次にあげる体のつくりのうち、いくつかを備えるという共通点があります。

- ①節のない軟らかい体
- ②石灰質の殻
- ③頭部・足部・内臓塊からできた体
- ④頭部の眼や触角
- ⑤口内の歯舌

更に、深海から陸上まで生息し、種類数が非常に多いことから、軟体動物はとても多様な生物だといえるでしょう。



カタツムリも巻貝 ①②④



ツノガイ類 ①②



二枚貝の軟らかい足 ①②



ヒザラガイ類 ①②



頭足類 ①③④



巻貝の体と殻 ②③



巻貝の歯舌 ⑤

# 昼間の星の観察会

みなさんは、星の観察というと、「夜」というイメージはありませんか。金子みすずは、「星とたんぽぽ」という詩の中で、昼の星は目に見えないけれどもあるということを詠っています。昼間は、地球から一番近くにある恒星「太陽」の光で私たちは見る事ができませんが、星たちは夜と変わらず空にあります。そういえば、「月を見たことがあるよ。」という方もいらっしゃるでしょう。また、昨年5月の金環日食をごらんになった方も多いかと思えます。条件によって変わりますが、太陽や月の他にも木星や金星などが見えることがあります。

昼間の星の観察会では、天体ドームまで上がっていただき、40cmの反射望遠鏡を使って、月面の観察をしたり、昼間でも見える星を見つけて観察したりします。また、76mmの移動式望遠鏡を使って、参加したみなさんにも操作してもらいながら太陽の黒点などを観察します。

昼間の星の観察会は、6月2日(日) 10:00~、6月16日(日) 14:00~、9月15日(日) 14:00~、各回30分です。また、きれいな星空が見られる秋から冬にかけては、夜の星の観察会も予定しています。みなさんの参加をお待ちしています。(教育普及係 箱田陽子)



## 利用案内

- 開館時間 午前9:30~午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
- 観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	500円	300円
第43回企画展開催時 (H25.7.13~9.1)	700円	400円

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。  
※有料者20名以上は団体料金で2割引となります

群馬県立自然史博物館だより  
Demeter No.57

編集・発行 群馬県立自然史博物館  
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250  
ホームページ  
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。